

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こだま			
○保護者評価実施期間	令和6年12月6日 ～ 令和6年12月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日 ～ 令和7年1月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、支援計画が作成され、計画に沿った支援を提供している。 ・定期的に保護者に対して、面談や育児に関する助言等の支援を行っている。	・アセスメントに基づき、子どもたち一人ひとりに合わせた具体的な目標設定で個別支援計画を作成し、保護者とともに一緒に考え、子どもの成長を見守っている。また、活動プログラムは、子どもの特性や課題に応じて、柔軟に実施している。	・今後とも定期的に面談や助言等を行い、お子さんの適切な支援のために努める。 ・子どもの行動や保護者の抱えるニーズや課題をしっかりと分析できるよう研修の充実など、職員の専門性の向上を図っていく。
2	・移行支援として、保育所や特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	・サポートブックを作成し、移行先の担当者と対面で引継ぎを行っている。	・支援のポイントなど、伝え方をさらに工夫していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っていない。	・施設の性質上、地域にオープンなことが、事業運営に資することとはいえないが、地域での存在感を高めていくことが必要である。	・地域の公民館や学校との連携による障がい児者への支援貢献が可能ではないかどうか取り組んでいく。 ・民生委員との連携により、障がい児者理解の啓発が可能ではないかどうか取り組んでいく。
2	・生活空間は清潔で、心地よく子どもたちが過ごせる環境にいつもなっていない。	・多忙時や職員が休暇で人員数が少ない時など、清掃が行き届かないことがある。	・職員一人ひとりの意識付けの向上。 ・客観的に評価していく体制を作っていくなどが必要。
3			